

K240.2

1a

暫定
中等地理二

文部省

文部省調查會及局刊行認寄贈

(前) ¥ .30

(51)

目 録

一 わが國の地勢	一
二 わが國の氣候	七
三 北海道地方	十
四 奥羽地方	十四

昭和21年4月23日印刷 同日翻刻印刷
昭和21年4月27日發行 同日翻刻發行
〔昭和21年4月27日 文部省検査済〕

著作權所有 著者 文 部 省
翻刻發行者 中等學校教科書株式會社
代表者 龜井 寅 雄
印刷者 大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉郎

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Apr. 23, 1946)

わが國の地勢

大陸の東の縁に沿ひ、太平洋上に三つの島弧をなして長く連なる列島があり、それらは千島弧・本州弧・琉球弧から成つてゐる。この列島の中央にある本州弧は、わが國の主體をなすもので、北海道・本州・四國・九州を主な島とし、それになほ多數の島々を含んでゐる。

かやうにわが國は多くの島々から成り立つ上、全體の形が細長く、且つ海岸の出入にも富んでゐるから、面積に比して海岸線が非常に長く、海との關係が特に深いことがわかる。

太平洋の水は國土の島々を分つ諸海峡によつて、大陸との間にある日本海やオホーツク海・東支那海に相通じ、又、太平洋沿岸を洗ふ黒潮の流れもその支脈と相まつて、國土の四周をめぐつてゐる。この大きな暖流のほか、千島から南下する親潮の寒流があり、これらの海流が、わが國の氣候や水産業についてはいふま

一 わが國の地勢

でもなく、あらゆる生活や文化の面に及す影響は、廣く且つ大きい。

又わが國が大陸に近接した位置にあることも、國土の自然、ひいてはその文化活動と密接な關係をもつてゐることは、わが國の地理や歴史の上に、多くの事實を見出すことができる。かうした海陸の配置から見たわが國の地理的位置は、國土の大きな特性の一つとして、注意しなければならない。

海の國であるわが國は、同時に又山の國でもある。國土の大部分が山地であり、しかもその地形が甚だ複雑である。それは主として地層の褶曲、土地の昇降、火山作用等、地殻の内部的作用と、河水による侵蝕・堆積等の外部的作用に基づくものである。

さきに舉げた千島弧・本州弧・琉球弧の三つの島弧は、その東側の深い海溝の底から見えて、約一萬數千メートルにも達する大山脈の一部をなしてゐる。さうしてこの山脈は、太平洋岸を縁取る一連の褶曲によつて出来たものといはれてゐる。

本州弧の褶曲山脈は、これをば二つの方向に走る

山系に分つことができる。すなはち北東部では、北から南に走るもので、これを北勢山系といひ、南西部では、西から東に走つてゐて、これを南勢山系と稱する。これらの二つの山系は、本州の中央部で接合してゐる。そこはわが國でも最も高い山岳地域となつてゐる。

しかもわが國は全體として、地體構造上、多くの地殻運動を受けた結果、極めて複雑な地形を呈してゐる。更に地殻の弱所に沿つて生じた幾つかの火山帯が通り、それに伴ふ各種の火山作用を現して、地形に一層の變化を加へてゐる。随つてわが國は到處ところ山がちであり、又世界で有名な火山國となつてゐる。わが國に地震や温泉の多いのも、かうした島弧の成因に深い關係をもつてゐる。

わが國の平野は甚だ小規模で、多くは列島の骨格をなす諸山脈と海岸との間に散在する小平野に過ぎないから、大陸に見るやうな廣大なものとは、ちのづから趣を異にしてゐる。

このやうなわが國の地勢を、北海道・奥羽の二地方から成る東北日本、關東・中部・近畿の三地方を含む

中央日本、及び中國・四國・九州の三地方に當る西南日本の三つに分けて、更に詳しく調べてみよう。

東北日本は北勢山系の諸山脈が骨格となつてゐる。それらの主脈をなしてゐるのは、北海道の中央部を南北に走る蝦夷山脈と、奥羽地方の中央部を縦に貫ぬく奥羽山脈である。

蝦夷山脈は北へは樺太山脈、南へは奥羽東側の北上・阿武隈の兩山地に續くものである。千島弧を通る千島火山帯は北海道の東部を経て、中央部に於いて蝦夷山脈とほぼ直角に交はり、こゝには大雪山（旭岳）・十勝岳等の高山があつて、本島中最も高峻な山岳地をなしてゐる。これに對し、本島南西部の渡島半島の山地は奥羽山脈に續くもので、こゝには那須火山帯が通つてゐる。これら火山帯には所々に火山や湖があつて、資すべき風景地をなし、又温泉も伴つてゐる。

この半島部と蝦夷山脈を主軸とする胴體部との間には、本島で最も廣い石狩平野がひろがつてゐる。北海道には石狩平野をはじめ、十勝平野・釧路平野・上川盆地・北見海岸平野等、主な川の沿岸や海岸地帯に、

わが國では比較的廣い平野が所々に展開してゐる。さうしてその中を諸川が緩かに屈曲して流れ、山地の起伏も一般に大まかで、山麓には廣い臺地が連なつてゐることなど、わが國の他の地方に比べて、幾分大陸的な景観を帯びてゐる。

諸平野のうち、石狩平野は概ね低濕であるが、十勝・釧路等の平野は、臺地性の特色をよく現してゐる。上川盆地は胴體部の中央部にあつて、海拔高度も比較的高く、石狩川上流の水脈が四周から集り、わが國の盆地でも一つの代表的なものとなつてゐる。

前にも述べたやうに、奥羽地方の山脈は、北海道と連絡をもつもので、東側には、蝦夷山脈に續く北上・阿武隈の山地があり、中央部には北海道の半島部に續く奥羽山脈と、これに沿ふ那須火山帯がある。その西側には、出羽丘陵と越後山脈が、島海火山帯を伴つて、南北に走つてゐる。これら諸山脈が三列に縱走してゐることは、奥羽地方の地勢の大きな特色となつてゐる。

奥羽山脈の東側には、北部に臺地性の陸奥東部平野

があり、その南に低濕な仙臺平野を挟んで、北上川と阿武隈川の谷平野が對稱的に存在する。

又奥羽山脈の西側には、横手・新庄・山形・米澤・會津等の諸盆地が並んでをり、それら盆地の水を集めて、雄物川・最上川・阿賀川の諸川は、いづれも山地を横斷して日本海へ流れ出てゐる。

日本海沿岸には、岩木川下流の津輕平野、米代川下流の能代平野、雄物川下流の秋田平野、最上川下流の庄内平野などの海岸平野がある。それらの海岸には、潮流と北西の卓越風による砂丘の列が發達してゐる。

奥羽地方の北部には、陥没による大きな陸奥灣があり、北上山地東岸の三陸地方には、沈降海岸の特色を示す小出入の多い、リヤス式の海岸が續いてゐる。

中央日本は、北勢山系と南勢山系との結合する部分に當り、地勢が高峻複雑である。關東地方の北東部には阿武隈山地の南端が現れて、入溝・筑波等の山地がなし、北部には奥羽山脈並びに越後山脈に續く山地があつて、那須火山帯を伴つてゐる。又西部には、關東山地が横たはり、富士火山帯に當る箱根火山や伊豆

半島と共に、關東西端山地をなしてゐる。更に富士火山帯は南へのびて、伊豆半島南方の島々へ續いてゐる。關東平野の東端には、古い山地の殘片と見なされる大味崎突角部があり、南部には丘陵性山地の多い房總三浦の二半島が東京灣を圍んでゐる。この二半島をつくる山地は、もと續いてゐたものが東京灣の陥没によつて分離したのである。かやうに關東平野は、かつてその周邊にほゞ山地をめぐらした大きな盆地と見るこゝとができる。

關東平野はわが國で最も大きな平野で、土地の隆起と利根川その他の諸川によつて運ばれた土砂の堆積によつてつくられたものである。川の下流に行くほど、細かい土砂が堆積し、そこには低湿な三角洲平野が生ずる。利根川下流のいはゆる水郷地方は、わが國でもその著しい例である。かつて淺海であつた部分が、埋め残されたところには、霞浦や北浦がある。これに對し、東京西郊の武藏野や相模原などは、隆起によつて出來た臺地で、その表面は常緑臺地と共に、樹枝狀の細かい谷によつてぎざまされてゐる。

中部地方の東部には、北勢山系に屬する越後山脈と關東山塊があり、西部には南勢山系に屬する飛騨・木曾・赤石の諸山脈があつて、日本アルプスと呼ばれる高く峻しい山々を連ねてゐる。

北勢・南勢の二山系は、こゝで富士火山帯によつて結合され、更に白山火山帯や乗鞍火山帯に屬する火山群と合體して、本州中最も幅の廣い山がちの地域をつくつてゐる。

この山岳地域を一般に中央高地と呼び、そこには所所に山間盆地や細長い河谷平野が發達してゐる。すなはち信濃川流域には、佐久平・上田盆地・善光寺平・松本平等の諸盆地、富士川の上流に甲府盆地がある。又天龍川沿岸には伊那谷が開け、その北端に諏訪盆地がある。木曾川の上流には狭長な木曾谷がつくられ、飛騨山脈の西には、飛騨高原が横たはつてゐる。これらの諸盆地には、山麓からのびた多くの扇狀地が見られ、河谷平野には、到るところ河岸段丘が發達してゐる。

中央高地の南斜面は、平野の比較的開けた東海地方

で、北斜面は北陸地方である。東海地方の河川は、山地から急に海に流れ出るため、いはゆる東海道式の荒れ川をなし、下流の海岸平野に多量の砂礫を堆積してゐる。久能山や牧野原などは、これらの川によつてつくられた古い扇狀地の隆起したものである。

濃尾平野から伊勢平野にかけては、木曾川・揖斐川等のつくつた扇狀地と三角洲から成る平野がひろがり、複雑な水路網をなす低湿地が多い。

北陸地方のうち越後平野は、信濃川・阿賀川等の三角洲から成り、海岸の砂丘列との間には、潟湖も少くない。富山平野は中央高地から流れ出る諸川の扇狀地によつて埋められ、扇狀地の傾斜面を流れる水は、加賀平野や福井平野の場合と共に、灌漑用水として利用するに便利である。

近畿地方の中央部には、南勢山系に屬する高さの低い、いはゆる地壘山地が分布する。伊吹・鈴鹿・比叡等の地壘山地によつて圍まれた近江盆地は、中央に陥没によつて出來た琵琶湖をたへてゐる。京都や奈良の盆地もいはゆる地溝性の低地である。大阪平野も周

邊に地壘山地を控へ、西方は瀬戸内海に續く大阪灣の陥没部に開いてゐる。

紀伊半島を東西に横ざる紀伊山脈は、赤石山脈より續く西南日本外帶山地の一部で、山が峻しく、谷が深い。こゝでは平地は僅かに海岸の段丘面や、主な川の川口附近などに見られる狭い地域に限られてゐる。北部の丹波高原は、中國地方へ續く比較的平坦な山地である。その瀬戸内海側には、播磨平野が開け、日本海側には、福知山や豊岡などの小盆地がある。

西南日本のうち、中國地方は、西南日本内帶山地に屬する花崗岩の多い高原狀の中國山脈が主脈をなし、これに沿つて白山火山帯が日本海側を通じてゐて、所に火山を起してゐる。この中國山脈によつて本地方は、南の山陽と北の山陰に分たれる。

瀬戸内海は内帶山地の一部が陥没して出來た多島海で、沿岸の山地も島々も花崗岩の明かるい山脈を見せ、それが分解して出來た白砂の濱には、緑の松が連なり、青い海の色と相映じて、到るところ美景をくりひろげてゐる。

瀬戸内海を中心に、播磨平野や岡山平野などのある北の沿岸と、讃岐平野などのある南の沿岸一帯を含む地方は、一般に瀬戸内の名で呼ばれてゐる。

四國地方の分水嶺をなす四國山脈は、紀伊山脈から續く外帶山地の一部で、その地勢は中國山脈とちがつて概ね高峻である。この山脈を境に、南四國は北四國と分たれるのである。

南四國の太平洋岸には土佐灣の陥没部が大きな弧狀の彎曲を呈し、その奥に高知平野がある。

更に九州地方は、山脈の構造上、中國・四國地方と連絡する。すなはち北九州には、幾つかの分離した山塊があつて、その間に小平地が存在してゐるが、これらの山地を總稱した筑紫山脈は、中國山脈の西の延長で、高さは中國山脈よりも一層低くなつてゐる。

筑後川流域を中心とする筑紫平野は、九州で最も大きな平野で、筑後川下流の有明海沿岸一帯は、土地が極めて低湿で、用水路や排水溝が縱横に通じ、水郷の景觀をよく現してゐる。西部の肥前半島は、一般に山がちで、多くの灣や半島によつて組み合はされ、複雑

な海岸線を呈する。附近には五島列島をはじめ、島も多く散在し、北方海上には壹岐・對馬がある。

中九州は、阿蘇火山帯に當る地域で、瀬戸内海陥没帯の西端が、火山噴出物によつて埋められ、このため北九州と南九州とが連絡したのである。阿蘇山は、わが國の著名な活火山の一つで、舊火口の大きなことは世界でも珍しいものとされてゐる。この地方にはそのほかに多くの火山があり、隨つて温泉も多い。中でも別府は特に有名である。

阿蘇山の西方にひろがる熊本平野は、九州で筑紫平野に次ぐ主な平野で、その有明海側にも所々に丘陵性山地があつて、平野の中心部はほぼ盆地狀をなしてゐる。

南九州は、四國山脈の續きの九州山脈によつて中九州と分たれる。この山脈は起伏が多く、高い山がそびえ、深い谷のさざまけてゐることは、四國山脈や紀伊山脈と似てゐる。九州山脈が豊後水道を隔てて、四國山脈と相對するところは、陥没によるリヤス式海岸の特色をよく示してゐる。九州山脈の奥地深く發源する

球磨川は急流をなし、上流に人吉盆地をつくつてゐる。

この山地の南部には、霧島火山帯が通じてをり、更にそれは鹿兒島灣の地溝帯に沿つて南へのび、薩南諸島や琉球列島の内側へ續いてゐる。霧島山・櫻島・開聞岳等は、この火山帯にある主な火山である。

南九州には、諸火山の噴出による火山灰の堆積した臺地性の平野が所々に分布し、この地方の廣い農作地となつてゐる。その他の主な平野には、日向灘に注ぐ諸川によつてつくられた日向海岸平野がある。

二 わが國の氣候

わが國は大陸と大洋との中間にあつて、季節風の影響が著しい。しかも細長い島弧をなす國土は、四面海流によつて包まれ、且つ水陸の分布が複雑である上に、土地が起伏に富んでゐる結果、氣候は大體に於いて溫和であるとはいへ、所による相違と季節による變化が大きく、又天氣が甚だしく變り易い。このやうな氣候的特色は、わが國の自然界のみならず、生活や文化な

どのいろ／＼の方面に深い關係をもつてゐる。そこで次に各地方について、氣候の特色を調べてみよう。

東北日本の氣候は一般に冷涼である。北海道は緯度からいふと、フランスの南部からイスパニヤの北部に相當してゐる。ところで、ほぼ同緯度にある札幌とマルセイユの冬の氣溫を比較してみると、札幌は零下六・一度、マルセイユは六・三度であつて、前者は著しく低温である。北海道にえぞまつ・とどまつ等の寒地によく育つ樹林が繁茂してゐることから見ても、氣候上、北海道はむしろ中歐の北部や米國の北東部あたりと似通つてゐることがわかる。

同じ北海道でも、その東半部と西半部では、氣候が少からずちがつてゐる。すなはち胴體部の西側は、東側に比べて夏も冬もやゝ高温で、雨もより多い。これは西海岸を對馬暖流が北上するのと、冬の季節風に影響される結果である。これに反し東側は夏も低温で、雨も少く、冬は晴天の日が多い。特に根室・釧路方面の海岸地帯では、初夏に流水が南下して、海水の溫度が低くなり、しばしば海霧（ガス）を生ずる。

中央部の上川盆地は、これらと異なり、夏は本島中最も高温となり、冬は十勝平野と共に最低の気温を示し、やゝ大陸性の氣候の特色を帯びてゐる。

奥羽地方は本州中最も寒冷で、殊に南北に長くのびた地方であるから、北に行くほど気温が低い。しかし寒さは北海道ほどきびしくない。一般にこの地方の太平洋方面は日本海方面よりも低温であり、夏は特にさうである。これは日本海方面に暖流、太平洋方面に寒流が流れてゐるためである。殊に陸奥東部平野や三陸地方では、夏に北東風の吹くことが多く、寒冷な空気が内陸へ送られ、しばしば冷害を受ける。

日本海方面は、北海道の西半部より降水量が多く、特に冬の降雪が著しく、海岸に通ずる谷のある米澤盆地や新庄盆地は、わが國での深雪地をなしてゐる。これに反し、奥羽山脈の東側は、雨も少く、冬季には晴れがちな日が続く。これは湿氣を含んだ冬の北西季節風が、奥羽山脈に沿つて上昇する時に冷却して、その西斜面に雨や雪をもたらす、分水嶺を越えた奥下では、乾燥した風が吹くためである。

は最も大陸的である。特に松本平・飛騨高原・諏訪盆地・上田盆地等の冬は、寒さが強い。雨量は二年中の総量も少く、山間盆地はかなり乾燥してゐる。なほこのやうな氣候は、近江盆地の南半部や、京都・奈良盆地にまで及んでゐる。

關東地方の南半部から伊勢平野に至る太平洋沿岸地方は、いはゆる表日本式氣候の特色を示してゐる。一般に夏を中心に雨が特に多く、冬少くて晴天が多い。夏の降雨は季節風の影響によるもののほか、梅雨や颱風によるものである。颱風はしばしば豪雨を伴ふから、東海道方面では洪水が起り易い。

關東地方と東海地方の海岸地帯は、寒暑の差が少く、極めて温和な氣候の地方である。特に房總・三浦の二半島、湘南や伊豆の海岸は、冬に著しく温暖である。しかし關東平野や濃尾平野のやうな廣い平野の内部は、やゝ寒暑の差が大きく、冬は北西の乾燥した風が吹く。

伊豆七島や小笠原群島は、気温の變化が少く、亞熱帯性の氣候を呈し、霜や雪は見られない。しかし颱風

北陸地方も、奥羽西海岸地方と類似した氣候を呈する。しかし一年間の降水量は、日本海沿岸の他の地方に比べて最も多く、これは特に冬の降雪量が甚だしいためである。それには冬の季節風のほか、シベリヤ大陸に發して日本海の北部を通過するいはゆる溫帶性低氣壓の風によつてもたらされる降雪も少くない。この風によつて、北陸地方では、しばしば猛烈な吹雪が起り、強風や雪の被害に見舞はれる。この地方の丘陵や溪谷は、わが國の最深雪地帯をなしてゐる。

夏の初め頃、揚子江流域に起る溫帶性低氣壓による梅雨の影響によつて、多量の降雨のあることは、中央日本以西に共通してゐる。中央高地から吹きおろすいはゆるフェーン風は、異常な気温の上昇を示すことがある。このやうな氣候状態は、近江盆地の北半部あたりまで見られる。これらはいはゆる裏日本式氣候の特色である。

中央高地は關東地方の北西部と共に、山がちな地形と、内陸にある關係から、夏は暑く冬は相當に寒い。夏と冬の気温の差が二十二度以上に及び、本州で

に伴ふ豪雨と強風に襲はれることが多い。

西南日本の瀬戸内地方は、わが國でも北海道の東半部に次ぐ雨量の少ない地方である。これは地勢上、北側及び南側が山脈で閉ざされてゐるため、夏冬共にそこが季節風の風下に當るからである。特に冬は乾燥して、晴天の日が続く。夏も雨が少く、蒸發が盛んなため、しばしば旱害を受ける。このいはゆる瀬戸内式氣候は、東は大阪平野から、西は北九州の北東岸まで及んでゐる。

北陸地方に續く山陰地方は、日本海沿岸とはいへ、裏日本式氣候とはやゝ異なるところがある。雨は九月に最も多く、冬の降雪は北陸や奥羽西岸よりは遙かに少い。若狭・丹後・但馬地方の谷間にはかなりの積雪を見るが、西するにつれ次第に少くなる。

北九州及び中九州は、瀬戸内地方の西に續いて、それより気温は少し高く、年雨量は大部分が二ミリの程度であるが、たゞ肥前半島や對馬ではそれ以上に達する。

又この地方では雪が極めて少くなり、筑紫山脈の北

斜面に僅かに積るくらゐである。熊本平野はやゝ大陸的で、霜の降りる日数が比較的多い。

紀伊半島と南四國・南九州は、一帯に同じやうないはゆる南海式氣候の特色を示し、一般に高温多雨である。年雨量は二千五百ミリから四千ミリに達し、わが國では最多雨地域をなしてゐる。雨は夏、殊に梅雨の頃最も多い。これらは季節風や低氣壓などの風と、地勢との影響に基づくものである。一方高温なのは主に緯度の低いためであるが、特に冬は甚だ温暖で、平地では積雪を見ることが稀である。

紀伊半島の南端や、室戸岬、大隅・薩摩兩半島などのやうな突出部では、殆ど霜を見ない。しかし夏から秋にかけて襲ふ颱風は、豪雨と強風を伴ひ、わが國でも最も風の強い地方となつてゐる。南九州から南方へ続く島々は、四季を通じて雨が降り、氣温は南へ行くと従つて亞熱帶性を呈する。

わが國土はこのやうに地勢の複雑なものと相まつて、各地各様の氣候を示してゐる。國民は古來これらの自然條件に順應した生活を続け、文化を向上させて來た

のである。

かうした自然環境の多様性を基礎として打ちたてられた生活や文化の特色を、各地方について調べてみたい。さうして一地方の特色は、單にその地方についてのみでなく、他地方との比較や關聯に注意することによつて明らかにすることを理會すると共に、それら各地方がわが國全體から見ても、いかなる地位にあり、又いかなる役割を果しつつあるかを考へることが大切である。その際、われわれは常に自分たちの郷土のすがたを念頭に置き、その向上發展に資する心構へを忘れてはならない。

三 北海道地方

北海道は主として明治維新以後、新しく開拓された地方で、住民の多くは本州方面から移つて來たのである。開拓には當初から隊米の様式を取り入れたため、この地の自然環境と相まつて、全體としてわが國の他地方とは、おのづからちがつた地理的特相を帯びてゐる。

る。

元來北海道は、渡島・蝦夷などとして、古くから知られてゐたが、江戸時代に、奥羽の沿岸漁業者が出漁のため渡來するやうになつてから、先づ半島部に漁港が開け、續いて附近に畠も追々開墾されて行つた。明治の初め頃には、政府が開拓使を置いて移住並びに開墾の奨励を行なつたため、半島部の海岸や山麓の開墾が促進された。半島部の麓には、今でも出身縣の地名をとつた福島村や秋田村などの開拓村が見られる。

その後、移住者は次第に奥地へはいり、右狩平野から更に、中央山地を越えて、十勝・釧路・北見方面へも進出するに至り、各地に村が出來、耕地が開けて行つた。

本地方の主な農産物としては、大豆・馬鈴薯・小麥・大麥・燕麥・甜菜・米等が挙げられ、その他に亞麻・除虫菊・薄荷・りんご等がある。

これらのうち、北海道全般に互つて分布するものは、大豆・馬鈴薯・小麥・燕麥である。いづれも北海道の主要食糧として、開拓當初から栽培された。又、甜菜

や亞麻なども、北海道のやうな雨の少い、冷涼な氣候によく適した作物である。

これに對し、米作は最初、この地方の氣候から見て不可能と考へられた。しかし北方農業の科學的研究の結果、品種の改良に成功し、農耕者の努力と相まつて、遂に米作を可能にした。さうして今では米作は、半島部から右狩平野・上川盆地をはじめ、十勝平野に及び、更に北見平野にも行なはれるやうになり、殆ど全島に普及してゐる。殊に上川盆地では、地形や氣候の關係と、早くから開拓に従事した屯田兵村民の努力によつて、本島第一の米作適地となつてゐる。

しかし米はなほ北海道全體としては不足がちで、大豆や馬鈴薯などの代用食糧が今も重要となつてゐる。

馬鈴薯は食糧となるほか、澱粉やアルコール製造の原料となり、種薯としても本州方面へ送り出される。十勝平野は、鐵道が狩勝峠を越えて根室へ通ずるやうになつてから移住した人々によつて、本格的に開拓されたところで、初めは主として馬や牛の放牧に力を注いだ。しかし臺地性の廣い原野が畠作に適したた

め、次第に開墾を進めて、大豆や亞麻・甜菜等を作るやうになつた。これらの作物は、ロシアやポーランドなどに多く作られる種類である。その後、これらは北見方面の平野でも栽培されてゐる。交通の要地である札幌には製糖工場があり、又、帯広には甜菜を原料とする製糖工場がある。

りんごは半島部の余市附近が栽培の中心地である。冷涼性の氣候が栽培に適し、品質も比較的よいので知られてゐる。

薄荷は北見地方で栽培される。この地方に鐵道の通じてゐなかつた交通の不便な時代から栽培されたもので、輕くて高價な薄荷油に製造し、これを馬の背により峠道を越えて他地方へ運び出したのである。

土地の早く開けた札幌附近の農村では、種々の蔬菜類が栽培されてゐる。玉葱・南瓜・セルリー・アスパラガス・キャベツ等が多く、櫻桃や苺なども作られる。これらの作物は、氣候が歐米の文化地帯に似てゐることから、それら外國産の種を輸入して栽培されたものである。

札幌では早くからビールの醸造が行なはれてゐるが、これはビールにがみをつけるホップが附近に栽培されるのも一因である。この地の冷涼な氣候は、ドイッあたりと似て、ホップ栽培に適してゐる。

北海道の農業に於ける一つの特色として、本州その他とちがつてゐるところは、一種類の作物を廣い地域に互つて作ることである。しかも品の耕作には牛・馬を多く使ひ、所によつてはトラクターのやうな農業機械も用ひる。石狩平野や十勝平野などはそれらの代表的な地方である。北海道の農家二戸當りの耕地面積は約五町歩であるのに對して、本州その他ではそれが僅かに約一町歩であることを見ても、本地方の農業經營が他と異なることがわかる。こゝでは少い農業勞力で、廣い土地を耕す必要があり、しかも氣候が冷涼な上、冬が長くて耕作期間が短いので、夏作を主とすることになり、且ついはゆる大農法農業が取り入れられるやうになつたのである。

北海道には到るところに乳牛が飼はれてゐる。中でも札幌郊外の乳牛飼育と、それに伴ふ煉乳・バター・

チーズ等の酪製品の製造は有名である。この地方では所々に牧草を貯藏するサイロが建てられてゐて、米國やデンマークなどの農村に見る牧場風景に似た趣が感じられる。

石狩平野には低濕に過ぎて耕作に適しない土地が所所に殘されてをり、さうした濕地附近に於ける牧牛は、オランダのそれを聯想させるものがある。又この平野の山麓方面では牧羊も行なはれる。

これに對して、北海道南東部の太平洋方面では牧馬が盛んである。到るところに廣い原野があつて牧場に適し、北海道でも最も盛んな牧馬地帯となつてゐる。

この地方のうちでも、特に釧路・根室方面は、夏、氣温が低い上、濃霧のために農耕が振るはず、これにかはつて牧畜が營まれるのである。

北海道の主な産業の一つは漁業である。近海には寒流と暖流が交流し、この地方は世界的な漁場となつてゐる。今日ではその中心は北部に移つたが、それまでは半島部の西岸が好漁場となつてゐて、春になると鯉の大漁で港々は賑はつた。漁期には奥羽方面から出稼

ぎに來るものが多い。以前はとれた鯉を大部分肥料としたが、今は數の子やみかき鯉として各地へ送り出しでゐる。

根室・北見方面の海岸では、鰯・昆布・帆立貝・たらば蟹等の寒海性の魚類がとれ、西別川や石狩川は鮭・鱒の漁獲で名高い。又西岸の漁場では、いか・鰯等の暖海性の魚類もとれる。函館・小樽・釧路・根室等、北海道の港町は漁港から發達したものが多く。

本地方では漁獲物の大部分を加工して、遠い地方へ輸送のできるやうにするところに特色がある。これは漁獲物が大量なこと、需要地が遠いことなどによるのである。

山地では森林や鑛山の開發も盛んである。各地の原野は農場や牧場に開拓されたが、北見・天塩・十勝等の奥地にはまだ林野が多く、胴體部の山地には寒帯性の美林がひろがつてゐる。山地の木材は冬に伐採され、積雪の上を平地へ運び出される。さうして鐵道や河川を利用して、江別・苫小牧その他のバルブ・製紙工場へ送られる。これらの工場の位置は、炭田に近く、

水力電氣の得易いところが選ばれてゐる。

北海道にはわが國屈指の炭田地域があり、中でも石狩炭田は最も重要である。こゝには夕張・美唄・空知等の各炭田が並んでゐて、掘られた石炭は、鐵道で室蘭や小樽に運ばれ、そこから京濱や中部地方の諸港へ積み出される。又釧路炭田も著れてゐる。

以上のやうに、この地方は工業原料として、農林・畜産物の産出が多く、これらに加工する工業が、それぞれの生産地域に興つてゐる。随つて工場分布が分散的である。各地の都市の發達も、この事情と關係の深いことはいふまでもない。

札幌や旭川をはじめ、多くの都市は、開拓當初、計畫的に建設されたもので、いはゆる棋盤目型の整つた街路をもつてゐる。農耕地に於いても土地を整然と區劃して、開墾經營を便にしたところに、本道の特徴が認められる。

北海道の人口分布は、主な農業地や都市附近が比較的密であるほか、全體としてその密度は、わが國の他地方に比べて、まだ著しく小さい。すなはち北海道は

人口約百三十萬、その密度一平方キロ三十七人で、全國平均の五分の一、本州・四國・九州平均の六分の一にも達しない。さうして本州にあるやうな大都市も見られない。

この地方は土地利用にしても、天然資源の開發にしても、なほ多くの餘地を残してゐるから、交通の發達と生産に對する科學的研究によつて、經濟・文化の發展は、十分その將來を期待し得るのである。本地方の開拓の歴史と近年の急速な發展はこの期待を有力にする。

原住民のアィヌ人は約二萬八千を算する。かれらは遠い昔には、本州にも廣く分布してゐたことが、その遺物・遺蹟の發掘によつて知られる。今はわが國では殆ど本道だけに残り、主に日高・虻田地方に住み、狩獵のほか農業をも営んでゐる。

四 奥羽地方

奥羽地方はその位置が本州の北東部に當るところか

暫定 中等地理 二

文部省

文部省調査費爲刊行課寄贈

(中) ¥ 30

(51)